

スト破リ本部・車組・土屋一派を糾弾する



日刊 勤労千葉

81.3.4

No.678

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八(動力車会館)
(電話)二九三五(六・会費)四七二七(二七)

助役機関士投入ニスト破りを粉碎して 三月決戦ストライキを貫徹しよう!

佐倉拠点における三月決戦スト第二日目の闘いは、前日に引き続き、成田支部の仲間と相呼応した断固たるストライキをもって一本の燃料列車も動かさない完璧な闘いとして闘い抜かれた。しかし、国鉄当局はついに三月四日(本日)から助役機関士を投入してスト破りを強行しようとしている。

この当局のかつてない暴挙に対し、われわれは満腔の怒りを込めて五日特急・急行列車の指名スト、六日全面ストへの断固たる戦術拡大をもって闘い抜こうではないか。

当局の手厚い保護を受けて スト破りを行なう土屋一派

わが勤労千葉の組合員が処分を覚悟し弾圧をはねのけ、一丸となつてジェット燃料列車阻止のストライキを連日闘い抜いている中で佐倉における「本部」一革マルと裏切り分子土屋粹一派に身をよせた者たちは、国鉄当局の手厚い保護を受けて当局のいうがままに唯々諾々として乗務しているのである。すなわち、土屋粹一派「本部」派の出勤時間が近づくこと人事課長以下10、15名の公安・局課員が佐倉機関区庁舎前に整列し到着を待っているのである。そして、「本部」派組合員の囲いを保護しながら二階の更衣室・当直室へと移動し、出勤点呼が終ると通常ならばまだ乗務時間まで時間があるので乗務員詰所などで待機するのだがこの二日間彼らはあたふたと機関車に行つて運転室に入つてとじこもり、機関車が出庫するまで当局・公安がその囲いを保護しているのである。この間、約一時間。当局は、こうして「本部」派が出動してくるその都度、手厚い保護を行なっているのである。

助役機関士投入を 策動する当局

佐倉拠点でのきわだつた動きの第二は、ストライキ初日(3/2)には、「本部」の乗務員であるにもかかわらずわが勤労千葉のストライキのためにその列車(機関車の三重連のみの列車)を運休したのであったが、第二日目の昨日は「本部」派を使って運転を強行しているのである。

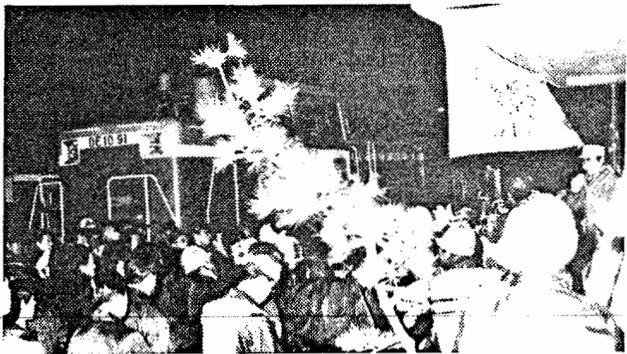
「本部」派組合員に対する追及・説得行動をしようとするわが勤労千葉の組合員を全く近づけさせないという異常な行動に出ているのである。この公安・局課員による「本部」派の保護は、「本部」一革マル分子と土屋粹一派がわが勤労千葉の追及・説得行動を恐れな

んとかのがれようとしてジェット延長に合意・妥結することと引きかえに当局に泣きついたものである。スト破りを指令した土屋・山下・鈴木などの「本部」派役員は、今日もくもがくれをきめ込み、職場には、全く姿を現わさず、当局を仲介して電話で「組合員一との連絡を行なっていたのである。こうして、彼らは、労働者の風上にもおけない腐敗分子として、今や当局の奴隷になりさがつた姿を連日さらけ出しているのである。

関士投入によるスト破りの準備作業を公然と「本部」派乗務員にやらせているのである。

「本部」一革マル分子と結託した土屋粹一派の裏切りと敵対とスト破り行為を断じて許すわけにはいかない。

四日以降、われわれのストライキに対して助役機関士を投入してスト破りを強行してくるならば、すでに宣言し準備態勢を完了している様に、五日、特急・急行列車の指名スト、六日、全面ストライキへの戦線拡大をもって断固闘い抜こうではないか。



本部派のスト破りと対決し力強く
ストライキを闘う佐倉拠点
(写真)前夜総決起集会)